

## 令和 4 年度 経済環境委員会 第 1 回議会報告会

令和 4 年 9 月 1 日

委員長 【 永井 誠一 】

議会報告会実施計画	委員会 テーマ	『観光による地域経済の活性化』について		
	テーマ 設定目的	令和 4 年度御殿場市議会経済環境委員会の研修テーマ「観光振興による地域経済の活性化」に沿って、その先進地である長崎市の観光施策・観光戦略、特に観光DMO について視察研修し、御殿場市の観光振興に反映させることを目的とする。		
	対象団体	御殿場市観光協会		
	調整事項	実施日	令和 4 年 9 月 1 3 日 (火)	
		時間	午前 1 0 時 0 0 分	～ 午前 1 2 時 0 0 分
		会場	御殿場市役所東館第 1 ・第 2 委員会室	
		出席 予定者	経済環境委員 7 名 御殿場市観光協会代表者 最大 2 4 名	
事前準備	役割 分担	挨拶・基調報告 永井 誠一委員長 案内通知作成・司会進行 林 義浩 副委員長 グループワーク 全員		
	資料	委員		
	その他			
備考	基調報告の後、グループを 2 つに分けて、ワークショップ形式で話し合い、問題や課題の抽出、また共有して取り組んでいくべきこと等を話し合う形式で進行する。			

議会報告会実施報告	実施日時	実施日	令和 4 年 9 月 1 3 日		
		時間	10:30	～ 12:00	
	参加者	会場	第 1 ・第 2 委員会室		
		当日 参加者	経済環境委員会委員 7 名、観光協会会員 1 8 人、当局 7 人 他 6 名		
	実施内容 概要	経済環境委員会基調報告の後、グループを 2 つに分けて、ワークショップ形式で話し合い、問題や課題の抽出、また共有して取り組んでいくべきこと等を話し合う形式で進行した。			
報告書	報告書作成	委員長			
	議会だより	委員長			
備考					

## 議会報告会実施報告書

開催日時	令和 4 年 9 月 1 3 日（火）午前 1 0 時～午前 1 2 時 0 0 分	
開催場所	御殿場市役所 第一委員会室	
テーマ	長崎版 DMO 基本戦略と長崎市観光 MICE 戦略について	
出席議員	司会者	小林恵美子
	記録者	小林恵美子・黒沢佳寿子（グループワーク）
	報告者	永井誠一（基調報告） 林 義浩（機械操作）
	その他	高橋利典 杉山 護 辻川公子 永井誠一・林 義浩（グループ進行・グループ発表）
参加人数	経済環境委員会 7 名、関係団体 1 9 名、市役所職員 2 名 計 2 8 名	
実施内容	<p>1 基調報告 7 月に実施した委員会視察「観光振興による地域経済の活性」の研修テーマに沿って、長崎版 DMO 基本戦略、本市の現状、対応・推進案等について、パワーポイントを用いて報告をした。</p> <p>2 ワークショップ 参加者を 2 グループに分けて、P J 法により「御殿場版 DMO を成功させるためには」をテーマとして意見を出し合った。議員は、3 人・4 人に分かれ各グループに入って討議を主導した。討議終了後は、グループ長が意見を集約して発表した。</p>	
主な意見 ・提言等	<p>1 主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・御殿場版 DMO を成功させるには、情報の集約・一本化が必須。</li> <li>・御殿場市観光におけるコンセプトを明確にしたい。</li> <li>・官民の戦略プランの共有で認識を共通にする。</li> </ul> <p>2 課題と要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光 DMO に対する市民の理解が必要である。</li> <li>・市内観光における交通網の整備が不十分である</li> <li>・情報発信の強化が必要である。</li> <li>・データを活かす専門官・戦略官の登用が重要である。</li> </ul>	

以上のとおり、報告します。

令和 4 年 9 月 1 6 日

御殿場市議会議長 様

経済環境委員会 委員長 永井誠一

第1回

# 議会報告会

経済環境委員会



## 観光協会の皆さまと共に

日時 令和4年9月13日(火)

午後10時00分～12時00分

会場 御殿場市役所 東館 3階

第1・第2委員会室

## 1、 報告会の目的

開かれた議会により、市民各界の皆様とのコミュニケーションをより一層深め、市議会が真にその役割を発揮し、輝きのあるまちづくりを推進していくことを目的として開催します。

## 2、 報告・情報交換の対象者と、質問や意見・提言等への対応について

- (1) この報告会は、経済環境委員会所管の主な事務事業について、その内容と議会の取り組み等に関して報告し、情報交換等を行うものです。
- (2) 一般市民は勿論、特にこれらの事務事業に直接関係している団体等を中心として、計画しています。
- (3) 出席者から出された質問や意見・提言等については、委員会としてその内容をしっかり受け止め、また必要な対応には、委員全員で積極的に取り組んでいきます。

## 3、 報告事項

基調報告「観光振興による地域経済の活性化」

## 4、 報告対象団体

御殿場市観光協会

## 5、 出席議員

経済環境委員会委員全員（議席番号順）

永井 誠一〈2〉 辻川 公子〈4〉 林 義浩〈10〉

小林 恵美子〈15〉 杉山 護〈18〉

黒澤 佳壽子〈20〉 高橋 利典〈21〉

# 進 行 次 第

司会進行：小林 恵美子委員

1、開会のあいさつ 委員長 永井 誠一

2、委員自己紹介

3、基調報告 「観光振興による地域経済の活性化」

委員長 永井 誠一

4、グループワーク 進行についての説明（委員長より）

「御殿場版 DMO を成功させるには？」

① 「DMO の考え方」

② 「MICE 戦略の役割」

グループ	ファシリテータ (司会進行役)	書 記
A グループ	委員長	小林委員
B グループ	副委員長	黒澤委員

5、総括

ワークショップ内容の結果発表

各グループのファシリテータ

6、閉会のあいさつ

副委員長

【タイムスケジュール】

時間	内容	場所	担当者	備考	
8 : 30	集合 会場準備 受付準備	第1・第2 委員会室	委員全員	受付テーブル設置	
10 : 00	開会（観光協会）	↓	観光協会	観光協会の報告事項	
10 : 30	委員長挨拶 基調報告				
11 : 00	ワークショップ		委員全員	<b><u>B班は301会議室</u></b>	
11 : 40	Aの発表		委員全員		
11 : 45	質疑応答		委員全員		
11 : 50	Bの発表		委員全員		
11 : 55	質疑応答		委員全員		
12 : 00	閉会			副委員長	

令和4年度 御殿場市議会  
経済環境委員会  
行政視察報告

**長崎版DMO基本戦略と  
長崎市観光・MICE戦略について**

# 視察日程

令和4年7月4日～令和4年7月6日

## ▶ 長崎県 長崎市議会会館前にて



## 視察の背景

御殿場市では観光戦略を策定し、国内はもとより、インバウンドも含め、観光客を市内に回遊させ、観光消費の拡大を見込んでいる。

おりしも同時期に御殿場市観光協会では、長年の懸案であった、山梨県・神奈川県を含めた富士山周辺の観光DMO事業を立ち上げようとしている

## 視察の目的

- ▶ 令和4年度 御殿場市議会経済環境委員会の研修テーマ「観光振興による地域経済の活性化」に沿って、その先進地である長崎市の観光施策、観光戦略、特に観光DMOについて視察研修し、御殿場市の観光振興に反映させることを目的とする。

## 観光DMOとは？

- ・・・観光地域づくりを民営化する考え

観光DMO先進地である長崎市を視察し、御殿場市が宣言している『観光ハブ都市』『観光戦略』などをより強力に推進できるよう、『観光立国ショーケース』や『観光DMO』に選定された長崎市を視察先として選定

## 長崎市の概要①

- ▶ 長崎市は、人口40万人、面積は約406 km<sup>2</sup>で長崎県の県庁所在地。
- ▶ 鶴の港と呼ばれる長崎港から、海外の文化を取り入れてきた独自の歴史と文化を持つ。
- ▶ 世界遺産の構成として軍艦島をはじめとする炭鉱施設や、三菱長崎造船所関連施設、グラバー邸など8つの構成施設がある。
- ▶ 訪問観光客数は令和元年691万人

## 長崎市の概要②

▶ 広島市と同じく  
被爆地として世界に  
平和を発信し続けて  
きた街である



## 長崎市の概要③

- ▶ 新たな博物館の開館や施設の開業に続いて、令和4年9月の西九州新幹線の開業などにより、交流人口を拡大し、雇用の創出及び所得の向上を図ることで地域経済の活性化を目指している。
- ▶ 観光資源としては「世界・新日本三大夜景」「明治日本の産業革命遺産」「長崎・天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」「和・洋・中が融合した食文化」等、歴史や文化が豊富である。

## 視察内容

### ▶長崎市文化観光部観光交流推進室

DMO NAGASAKI 長崎国際観光

コンベンション協会 からご教示頂いた

御殿場市DMO設立に関して、御殿場市観光協会と当委員会が意見交換・情報共有をし、今後連携をして御殿場市の経済活性化を図っていくという共通の考えから、主に観光DMOについて視察をした。

## 長崎市観光DMO設立の経緯①

- ▶長崎市が目指すものとして、平成28年3月策定の「長崎市・まち・ひと・しごと創生総合戦略」の特定戦略である「交流の産業化による長崎創生」があり、それを実現させるためにDMOを設立した。

## 長崎市観光DMO設立の経緯②

### 背景として・・・

- ▶ 交流がもたらす経済効果
- ▶ 恒常的な人口減少 長崎県では  
年間5000人の人口減少
- ▶ 市民1人当たりの消費額、1日約3,300円
- ▶ 観光客 年間約690万人
- ▶ 観光客1人当たりの消費額、  
1日約15,000円

## 長崎市DMO設立の経緯③

- ▶ 観光庁から「観光立国ショーケース」に金沢市・釧路市とともに選定され、インバウンド推進から段階的にスタートし、「長崎市観光振興計画2020」を補完する「長崎市DMOインバウンド戦略」を策定した。
- ▶ ※観光立国ショーケースとは・・・「日本再興戦略」に基づき、多くの外国人旅行者に選ばれる、観光立国を体現する観光地域を作り、訪日外国人旅行者の地方への誘客のモデルケース。

# 長崎市DMO 民間が儲かる観光

## 1、市とDMOの役割分担①

### 長崎市（観光まちづくりの政策立案と基盤整備

- ▶ 1. 「観光MICE戦略」策定・検証
  - ▶ ■ 戦略の策定
  - ▶ ■ 戦略の基本方針及び基本策定に基づく事業の実施と検証
  
- ▶ 2. 地域資源（ハード）を活かした魅力づくり
  - ▶ ■ 観光・MICE施設の整備等による魅力向上
  - ▶ ■ 市有の観光施設の整備・維持管理
  - ▶ ■ 出島メッセ長崎の整備・維持管理
  - ▶ ■ 市有文化財等の保存・活用など

# 長崎市DMO 民間が儲かる観光

## 1、市とDMOの役割分担②

### 3. ストレスフリーの環境整備・支援

- ▶ ■ ユニバーサルデザインの促進
- ▶ ■ 公衆無線LAN環境、総合観光案内所の設備等の整備
- ▶ ■ 観光案内板や説明板の設置と維持管理

### 4. DMOの形成・確立支援

- ▶ ■ 庁内関係課（商工部・水産農林部等）との連携

# 長崎市DMO 民間が儲かる観光

## 1, 市とDMOの役割分担③

### ▶ 観光まちづくりのマーケティングマネジメント

#### 市 DMO 共通

- ▶ 1, データ収集・分析に基づく戦力の策定
- ▶ ■ 訪問客に関するデータ収集・分析
- ▶ ■ 分析結果の提供・公開
- ▶ ■ 分析結果に基づく「長崎市板 事業計画」策定
- ▶ ■ 長崎観光ブランド立案（シティープロモーションとの融合）

# 長崎市DMO 民間が儲かる観光

## 1, 市とDMOの役割分担④

- ▶ **観光まちづくりのマーケティング・マネジメント  
DMO担当**
- ▶ 2、地域資源を生かした魅力づくりと消費拡大
- ▶ ■ 魅力あるコンテンツ造成（食・体験型・ユニークベニュー・長崎さるく・遊学券等）
- ▶ ■ 関係事業者育成及び受注促進

# 長崎市DMO 民間が儲かる観光

## 1, 市とDMOの役割分担⑤

- ▶ 3, ワンストップ誘致プロモーション・受け入れ
  - ▶ ■訪問客（インバウンド・国内観光・MICEの誘致、情報発信）
  - ▶ ■コンシェルジュ機能・受け入れ強化（総合観光案内所等）
- ▶ 4, 域内マネジメント
  - ▶ ■域内事業者との連携

**※長崎市では市のやるべきことと**

**DMOがやるべきことをはっきりと役割分担している**

# 長崎市DMOが目指す姿

## 『選ばれる21世紀の交流都市』

- ▶ まちは変わる。人が訪れる価値をつくっていく
- ▶ 行政・DMO・事業者・市民が協力して「交流の産業化」を加速化させ、町が潤い暮らしやすさが向上することで訪問客・事業者・市民が相互にWinWinとなる、調和のとれた「選ばれる21世紀の交流都市」となる

# 長崎市観光・MICE振興ビジョン 選ばれる21世紀の交流都市

- ▶ 「長崎の将来像」
- ▶ 1, 訪問客がまた来たい、もっと過ごしたいと思うまち
- ▶ 2, 事業者が交流で潤い、成長するまち
- ▶ 3, 市民が誇りを持ち、住み続けたいと思うまち
- ▶ 4, 危機管理に強いまち

## ※MICEとは . . .

- ▶ 企業等の会議 (Meeting)
- ▶ 企業等の行う報奨・研修旅行 (Incentive Travel)
- ▶ 国際機関・団体・学会等が行う国際会議 (Convention)
- ▶ 展示会・見本市、イベント (Exhibition・Event)
- ▶ の頭文字のことであり、多くの来日交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称
- ▶ **観光MICEとは視察・研修等で交流する人口までも観光客として取り扱うこと**

# 長崎市DMOの使命 ミッションは

- ▶ 観光・交流まちづくりのかじ取り役として
- ▶ 「訪問客の満足度向上・消費拡大」
- ▶ 「事業者のビジネスチャンス拡大・  
収益向上」
- ▶ 「市民の満足度向上」  
を継続的に実現

## ミッションを達成するために 長崎DMOが目指す姿は①

- ▶ 地域観光の課題・地域事業者のニーズ  
（困りごと）
- ▶ 訪問客のニーズ（求めているもの）
- ▶ をマーケティングの力で解決（提供）し、  
新たな価値を創造すること

課題...行政にはマーケティングの理解が難しい

シンクタンクやJTBなどなど民間活力を利用

民間が儲かるようにスモールスタートで成功し、  
徐々に拡大      4事業者から現在31事業者に

## ミッションを達成するために 長崎DMOが目指す姿は②その手法

- ▶ まずは事業者に潤ってもらおう
- ▶ 地域振興の良さを実感してもらい、インバウンドをあたたく迎える
- ▶ トライ＆エラーで進めていく
- ▶ 体験型コンテンツなどは民間が創り、市が販売
- ▶ プロ人材の育成
- ▶ 市民ガイドなども有料制に変換し「稼げる地域案内師」へ（高齢化に対する持続性）

## 考察

DMOについて、委員の多くが言葉の意味の理解は出来るが深くは分らない状況で、視察により大いに知識を得ようという意欲を持って場に臨んだ。

長崎市当局から頂いた資料や DMO NAGASAKI長崎国際観光コンベンション協会様の丁寧な説明により、DMOの意義や目的、観光振興への役割等、多くの知識を得ることが出来有意義な視察研修になった。



何より、市民生活に便利な施設・設備は観光来訪者にも便利であると強く実感した。

まちなかのエレベーター、市電、バス網、特徴のある街の形成に合った市民ニーズを取り入れた方策。和・華・蘭料理と呼ばれる卓袱料理を代表に、食文化の多様性（郷土料理・土産物）を当市も学ぶことが重要で、顧客の拡大につながると考える。

インバウンドや国内観光、MICEの誘致、情報発信とともに、コンシェルジュ機能・受入強化にも力を入れている。これはプロ人材が揃ってきたからという説明であった。観光MICE戦略のすべてを当市にも当てはめていく事が出来るのではないか。さらにはおもてなしの部分で、ボランティアガイドの育成強化も重要であると感じた。長崎では観光タクシーの分野別の試験があると伺った

市とDMOが役割分担を明確にし、地域観光を推進していく意義は大変重要である。観光交流人口1400万人、静岡県第2位のデータであるが、そのほとんどはアウトレットであり、何%の人がアウトレット以外で消費しているのかプロ視点のマーケティングが必要である。長崎市における役割分担とミッション、目的地の設定は評価できる。当市ではMICE戦略を学びつつ、まずはDMOにおいて「民間が儲かる観光戦略」といった簡単な言葉の呼びかけで事業参加も多数見込めるのではないか。地域通貨やデジタル商品券、デジタルふるさと納税などを使いやすいようにインフラ整備するのが、当面の当市のミッションであり、「交流を産業化する」という意識を実践に繋げていく戦略は、御殿場市が今から取り組むべき「観光による地域経済の活性化策である。

今後、豊富な地域資源を観光資源に磨き上げ、経営資源として活用し安定した雇用の創出に寄与しなければならない。併せて、地域内消費の拡大と、地域自らの手による基盤づくりを徹底したブランディングと、品質管理・来訪者の満足度の維持向上、関連事業者の人材育成等、観光振興の実現のために「御殿場版DMO」を早急に取り組む必要があると、委員一同強く感じた。DMO設立の効果は行政側とDMOがそれぞれ役割を理解・自覚し、果たしていく事により観光戦略・交流の産業化が図られ、経済の活性化が推進していくものと考え、「御殿場市版DMO」に大いに期待したい。御殿場市観光協会と更なる情報共有をし、当経済環境委員会も研修を継続していきたい。

ご清聴ありがとうございました

御殿場市議会 経済環境委員会

委員長 永井誠一

副委員長 林 義浩

委員 黒沢佳壽子

杉山 護

高橋利典

辻川公子

小林恵美子

